

第71回 明とアジアの国際関係

1 明とアジアの国際関係

・明は、他のアジア諸国と形式的な君臣関係を結んで冊封体制を形成し、多くの国々と（ ）を行った。



李成桂

「いざ国をつくろう！」その出自については、現在でも諸説ある。晩年は後継者争いに悩んだ。

- ☆（ ）(李朝または李氏朝鮮) (1392～1910年)
- 都…（ ）(漢陽) ※現在は韓国の首都（ ）
- ◆（ ）(太祖) (在位 1392～1398年)
- ・1392年、高麗の將軍であった李成桂が朝鮮(李朝)を建国した。
- ・明の朝貢国となり、科挙を導入して（ ）を官学とした。
- ・高麗以来の（ ）という特権階級が、高級官職を独占した。
- ・後に清が中国を征服すると、中国の伝統文化を朝鮮が受け継いでいるという「 」意識が強まり、儒教の影響が強まった。

가부도
마크처
여리투

訓民正音 朝鮮(李朝)で作られた表音文字の国字。別名「ハングル」。

- ◆太宗(在位 1401～1418年)
- ・1403年、世界で初めて、（ ）を实用化した。
- ◆（ ）(在位 1418～1450年)
- ・1446年、（ ）(後の)を制定した。



漢城の景福宮

朝鮮の宮殿として建設された。豊臣秀吉の朝鮮出兵によって焼かれたが、19世紀に再建された。現在は世界遺産となっている。



両班

両班(ヤンバン)は、高麗時代に成立した、特権階級である。武班と文班の高級官職を独占した。党派争いが激しく、混乱のもととなった。



世宗の紙幣

現在流通している韓国の1万ウォン紙幣には、世宗の肖像画が使用されている。

<タイ>

- ☆（ ）(1350～1767年)
- ・1350年、スコータイ朝を併合して成立し、上座部仏教を国教とした。
- ・米をチャオプラヤ川を通じて港に運び、多くの国々と交易を行った。
→日本人町もでき、山田長政の活躍が有名である。
- ・18世紀に、ビルマのコンバウン朝に滅ぼされた。



山田長政
傭兵として活躍し、アユタヤ朝の高官にのぼりつめた。駿河(現在の静岡県)出身といわれる。

<ビルマ(ミャンマー)>

- ☆ペゲー朝(1287～1535年)
- ・パガン朝が滅亡したころに、モン人がペゲーを中心に建国した。
- ☆（ ）(トゥングー朝)(1531～1752年)
- ・ビルマ人の王朝でタイのアユタヤ朝と抗争し、タイやラオスまで支配を広げた。

<マレー半島、スマトラ島>

☆ () (14世紀～1511年)

- ・マレー半島南西岸の港町マラッカを都とし、東アジアとインド洋を結ぶ交易路を抑えて繁栄した、東南アジア最初のイスラーム教国。
- ・15世紀初頭、明の () の南海遠征に協力し、明の朝貢国となった。
- ・16世紀初頭、ポルトガル人のアルブケルケに占領され、滅ぼされた。
→マレー人は、マレー半島南端のジョホールを貿易拠点として栄えた。

☆ () (15世紀末～20世紀初頭)

- ・スマトラ島の北端に成立したイスラーム教国。



マラッカ海峡

マレー半島とスマトラ島の間にある海峡。世界で最も重要な海域のひとつであることは、昔も今も変わらない。今でも海賊が出るらしい。



<ジャワ島>

☆ () (1293～1520年ころ)

- ・1293年、現地人が元を撃退して建国した。
- ・インドネシア最後のヒンドゥー教国となった。

☆ () (16世紀末～1755年)

- ・ジャワ島東部に建国されたイスラーム教国。

☆バンテン王国 (1527～1813年)

- ・ジャワ島西部に建国されたイスラーム教国。

<沖縄>

☆ () (1429～1879年)

都… ()

◆尚巴志 (在位 1422～1439年)

- ・15世紀、琉球を統一し、 () と呼ばれる琉球王となった。
- ・明と朝貢貿易を行うとともに、日本、朝鮮半島、東南アジアを結ぶ貿易センターとして大いに栄えた。
- ・1609年、薩摩藩の () によって征服された。
→薩摩藩と明 (後に清) の両方に服属する、 () となった。



首里城

首里城は、中国の紫禁城の影響により作られた。1945年、太平洋戦争の沖縄戦で焼失したが、1992年に復元された。



琉球の朝貢船

琉球は中継貿易地として、非常に重要な役割を果たした。中国のジャンク船と同タイプの船である。左のマストにはためく旗に注目。



島津家久

鬼島津と呼ばれた島津義弘の息子であり、薩摩藩の初代藩主。彼自身も、朝鮮出兵などで勇猛さを知らしめた。